



■ 第18回都草通常総会を開催



5月27日(月)、NPO法人 京都観光文化を考える会・都草の第18回通常総会が、京都府庁旧本館旧議場で開かれ、多くの会員の皆様の出席がありました。総会に先立ち、江戸時代の「京都御苑」と題して、京都市歴史資料館に長年勤められた伊東宗裕氏にお話しいただきました。

続いて総会の議事に移り、まず議長に豊田博一理事が選出され、総会の出席者数は委任状を含め278名と会員総数の半数を超えているとの報告がありました。第1号議案の令和5年度事業報告では、昨年10月に、京都市から自治記念式典において「未来の京都まちづくり推進表彰」を、京都商工会議所から「京都・観光文化検定20周年記念式典」において感謝状をいただいた等の報告がありました。第2号議案の令和5年度活動決算の報告では、黒字決算であったと報告されました。第3号議案の定款変更では、会員の会費納入期限について、当事業年度の末日から前事業年度の末日への変更が提案されました。第4号議案の令和6年度事業計画(案)では、「京都御所・御苑歴史散策ガイドツアー10周年記念事業」として、今年11月に記念講演会、12月にガイドツアーに取り組むとの説明がありました。第5号議案の令和6年度活動予算(案)では、上記の記念事業とホームページの改修等について説明がありました。各議案は賛成多数で原案通り議決承認されました。(理事 保科 秀行)

■ 都草 第18回通常総会特別講演 江戸時代の「京都御苑」



現在「京都御苑」とよばれる地域は、江戸時代以降どのような変遷をたどってきたのでしょうか。

京都のガイドブックや歴史解説書の中には、「京都御苑」は「公家町」があった場所として紹介されているものがあります。しかし、江戸時代には「九門の内」「御築地内」と称しており、「公家町」という言葉自体が明治以降になって新たに使われた言葉と思われま。また、「京都御苑内にはかつて200軒の公家屋敷があった」と紹介されることがあります。この点についても、例えば文久年間に発行された内裏図を実際に数えてみると、公家屋敷は99軒しかなく、親王家、門跡の里坊、武家屋敷など、公家屋敷以外の屋敷や町

屋も多くみられます。

京都市歴史資料館から刊行された『内裏図集成』でも紹介されている延宝5年(1677)の「内裏之図」は、火災による内裏再建後の新内裏の様子を表しています。そこには天皇が住む禁裏御所のほか、新院御所・本院御所・法皇御所とあわせて御所が4つも描かれています。この図以降「京都御苑」内にあった武家屋敷や町屋などが、御所の土地を確保するために「京都御苑」外に移されています。また、公家が分家する際でも、新たな公家屋敷を建てるべく土地を確保する必要があったことでしょう。

このように江戸時代の「京都御苑」は、限られた敷地に御所や公家屋敷をいかに確保するかを工夫しながら変遷してきました。常に御所や公家屋敷でないものを排しつつ変化し続けてきた特別な場所でもあるのです。

(会員 松枝 しげ美)

■ 観桜祭に参加して



京都府庁旧本館観桜祭ボランティアに3日間参加させていただきました。

昨年9月に都草に入会して11月に歓芸祭のボランティアを1日させていただきました。初めての案内を振り返って、反省する部分もありましたが、案内が聞けて良かったと喜んでくださる方々の反応が嬉しかったので、また挑戦してみたいと思い、今回観桜祭ボランティアにも参加しました。

観桜祭には、テレビを見て実際に建物を見学してみたくなったという方や、お花見のついでに寄ってみたという方など、たくさんのお客様が来られ、初めての方も多かったです。

私自身、今回の観桜祭に参加するにあたり、昨年の観芸祭の時には知らなかったこともいくつか知ることができたりもして、それを早速来られた方にシェアしてみたところ興味を持ってもらえたことも嬉しかったです。観桜祭期間中はボランティアに当たっていなかった日にも遊びに訪れてお花見をしたり正庁でお茶や和菓子を頂いたり、旧議場でお琴の演奏を楽しんだり、母を案内するなどして満喫することができました。期間中、お世話になった都草の皆様ありがとうございました。(会員 平田 佳奈絵)

■ 映像プロジェクト新作紹介



4月13日、映像プロジェクト第七作「春の京都御苑 藤原道長ゆかりの場所を訪ねて」をYouTubeで公開しました。

今年はNHKの大河ドラマ「光る君へ」の放映にあわせ、紫式部や源氏物語、そして彼女に大きな影響を与えたといわれる藤原道長が話題となっています。今回の作品では、都草の活動拠点でもある京都御苑とその周辺にあるゆかりの場所を紹介します。あの有名な望月の歌が詠まれたという「土御門第跡」、一条天皇の里内裏にもなり紫式部が女房として仕えた「枇杷殿跡」、源氏物語の中に登場する屋敷のモデル「桜町」、道長最期の地「法成寺跡」などが登場します。

現在これらの場所には当時を偲ばせるものはなく、駒札や石碑のみが建っています。そのため、京都市歴史資料館や風俗博物館のご協力を得て、絵巻物や平安京のジオラマ模型、寝殿の再現模型、当時の装束を忠実に復元した人形などの映像も挿入して、よりイメージを膨らませる工夫をしました。

また、桜をはじめ春爛漫の京都御苑を彩る花々も、もうひとつのテーマとなっています。今年は桜の開花が予想よりもかなり遅くなったため、撮影日程の調整に苦労しましたが、よく知られている出水の桜や近衛邸跡の糸桜はもちろん、梅花の枝で鳴くウグイスや御苑東に咲くシャガの白い花などにもご注目ください。

現在、今年100周年を迎えた京都府立植物園を1年にわたって撮影中です。ドローンを使った撮影にも挑戦し、その一部を4月17日に「特別編 春爛漫の空中散歩 開園100年の京都府立植物園」として公開しました。都草ホームページTOPの「YouTube公開動画」をクリックすると、第七作および特別編を含む映像プロジェクト制作の全作品が同じページに表示されます。ぜひご覧ください。(会員 杉 恵美子)

